

首藤傳明先生講義録 5

第 95 回弦躋塾 平成 13 年 11 月 11 日

学会報告と開業百日の苦しみ

はじめに

おはようございます。あの、今日はちょっと後ろに置くマイクを忘れておまして、何か忘れる(笑)、大事な事を何かひとつ必ず忘れるという特徴がある。そういうわけですが、この前の9月のセミナー以降、23日に全日本鍼灸学会の大分地方会で何か喋ってくれということでお話をしました。それから30日に名古屋のですね、経絡治療学会の名古屋支部長の坂本先生のお招きで、講演と実技をしました。あの、中和の学生さんが多かったですけどね。4時間ぶっ続けでやらされて、ちょっとくたびれた。それから21日と22日は、まあちょっと遊び心で京都の時代祭りに行ったんですが、ちょうど雨が降りましてね、行けなくて銀閣寺に行きました。ということで帰って来ました。神戸で神戸牛を、「狂牛病なにするものぞ」と。結構美味しかったですよ(笑)。あの、日本人というのはどうしてこう反応が敏感なんですかね。狂牛病というと肉屋さん、それから焼肉屋さんは大変ですね。私んとこの近所に3軒あるんですけども、1週間ほど前に行きましたら非常に(客が)少なかったですね。こういう時は余計に食べなくては悪いですよ。今はもう飛行機で外国にどンドン行けばいいです。ニューヨークで2万5千円位で行けます。



学会の報告をする首藤先生

で、27日と28日。日本伝統鍼灸学会が大阪の森ノ宮学園で行われました。私が会長に

なって正式には初めての学会で非常に心配したんですけども、学生さんと会員一般で570人ですね、非常に盛会だったと。まあ熱気があったですね。これは皆の感想ですけど、熱気があったという。あの、こういう不景気な時にですね、泣き言を言ったってしょうがないんですよ。泣き言を言うと、その言葉で喋ったり感じたりするとですね、それが出て来るわけです。不景気不景気と言わないことです。右見ても左見ても不景気という言葉が出て来ますけども、あまり同調しないほうがいいです。ほらでもいいんです。景気の良いことを言っていると、ほらも吹き当てるということもありますから。だんだん患者さんも多くなって来ると。ということで、まあなるべく明るくということ。それから希望を持つようにということでお話をしたんですけどね、教育講演を45分間。

メールによる教育講演の感想

で、メールに送られてくるんですね、その感想が。その中で主なものをここにコピーしてきたわけですけどもね。「首藤先生の教育講演はぜひ、テープで聞いて下さい」。これは滋賀の先生ですね。で、「会員にこれを流しているんですけども、分かりやすい言葉で治療家の心とはこうあるべきだということを訴えた」と。「言葉でも気を伝える事が出来る」というふうにこの先生は理解したんですね。それから2番目、3番目。これは塾生ですよ。『首藤先生の集大成、感動しました』。それから5番目ですね。「ベテランの首藤先生、芝原先生は慣れていますが、若い村田先生があれだけ出来るとはすごい」と。これも多分、塾生でしょう。それから7番目、「村田先生が飛び入りにもかかわらず、超浅刺の実技をやり、多くのプロ集団を前に実に見事だと感動いたしました」と。で、これは飛び入りなんですわ。芝原先生に実技をやってもらって、私が超浅刺をやるということでしたが、まあ「若い人でも練習すればこれだけ出来るよ」ということを言いたかったので、「お前ちょっと出ろ」ということで引っぱり出したんですけども。上手いもんですね。



大阪大会での会長挨拶



芝原先生



村田先生

で、いつも私は言ってるんですが、塾生の皆さん方に「これをしなさい」と無理強いした

ことは無いですね。だから、「私はこうやってるんですが、良かったら取って下さい」ということですから。この超浅刺もですね、私は非常に良いと思っているんですが、皆さんにもどのくらい出来るか分からないと思います。今日はちょっと皆さんが超浅刺が出来るかどうか、実技の時に一人ずつやってもらおうかなと思ってのんです。非常に便利が良いですしね、今までに無いような鍼のテクニックと、「良く効く」という効果の点では非常に利用価値が高いと思うんですね。若い人でもね、これをやると患者さんが早く治るし。それから鍼が好きな人は鍼が中に入ってビビビと響くのはいいんですが、嫌いな人が結構多いんですよ。まず私のとこの患者はね、8割位はそういうピリピリは嫌いという人がおるんですね。で、そういう人にね、あまりピリピリさせますと、喜んで行こうかという気にならない。で、この超浅刺やりますと、誰でも喜ぶんですね。じゃあまた来ようと。で、なんか麻薬みたいな感じになってくる。麻薬が切れると困るんで、禁断症状が出て来ますよ。そうすると必ず治療に来ますから。私は非常に良い技術だというふうに思ってるんで、まあ皆さんもひとつ、これだけはですね、ちょっと強制をしますので覚えて下さい。それから8番目です。これは東京の先生ですね。「日本伝統鍼灸術博覧会」と。「学生には良い」と。「しかし一般の会員はどうか、要するにそれによって他の流派の技術を盗もうとか、そういう事にはならないんじゃないかな」という感じですね。それから9番目の人はですね、「握手をしてもらった」と。で、「手の柔らかさに感激して」—まあ手が柔らかいというのも、これも大事ですね。[本を取り出して] えー、これがですね「治療家の手の作りかた」という、筑波短期大の形井先生ですね、これ日本伝統鍼灸学会の学術部長なんですよ。まあ私はこのテーマで買ったんですよ。まだ内容は読んでないんですけども。手というのは非常に大事な所でありまして、まずほとんど診断治療でこの手が8割9割の役目をしますよね。柔らかいというのは非常に大事な事なんです。なかなかそんな急に柔らかくなるものじゃないですよ。私の若い時に師匠がね、私の指を握って「こりゃあ硬いな。もうちょっとこれは柔ならんと困るな」と言って。実に師匠の指はですね、柔らかかったんですね。で、私がもうこの歳になったらそうなったんで、何十年とやっているとそうなるんですよ。なるんですが、まあ何とかその手を作る方法があるのかなということで買いましたので。塾生に回しますから読んだ人は良かったら買ってもいいし、良くなかったら無理せんといっても(笑)、結構値がはります。だからまあ、読んで良いとこだけコピーして、うんと良かったら本を買うということでもいいですね。まあそういうことで柔らかいというのが印象だったということです。それから「肩凝り」が今回のひとつのテーマだったんですね。で、私は斜角筋というのを非常に重要視していますが、これに気がつく先生が少ないんです。肩凝りにね、この斜角筋を使わないと非常に治りが悪いといえますかね。それから10番目ですね。まあ、私は初めてスライドをパソコンでやったんですよ。

経絡治療学会の講演の時にきれいだなと思ったんで（今回）やったんですが。これが非常に分りやすかったと。で、きれいだったという。まあちょうど私は横で見てるんで分からないんですが。岩田さんはですね、パソコンの教授なんですわ。私が受講生で。2年目になるんですが、「お前ちょっと後ろにおれ」と。機械が動かんようになったら操作してもらおうと。でその、始まる前に座ってたなら岩田さんが来て「肩揉もうか」とね。これがよう効いたですね。非常に緊張してるんですよ。私はだいたい緊張するほうなんです。今日も非常に緊張してまして、良くないですが。緊張すると、もうひどい時にはですね、心臓が破裂するような、胸は撫でくりまわしたみたい。で、肩を揉んでくれて。3分か4分ですが非常に楽になったですね。これが一番良かったなと言ったんですが（笑）。岩田さんが外から見て「パソコン、非常に良かった」と言ってくれましたんで、まあ感謝の意味を込めて岩田さんの名前を出しておきます。それからワークショップはですね、芝原先生が講演をして実技をしたと。これは肩凝りですね。で、その後、村田さんが超浅刺をして私が最後にしめたと。結構皆さん興味を持ってですね、最後の最後までね。「時間が余ったけん、ちょっと超浅刺を試しに打つかい」と言ったら皆さん手を出して。だいぶ多かったですね。



ワークショップでの実技



超旋刺を披露する



首藤先生の手技を学ぶ受講者

そういうことで、この弦躰塾からも多くの先生方が出席をしていただきました。先ほど上尾先生の会計報告にありましたように、夏期大学に出席した人は1人1万円の補助を出します。これは申請しないと駄目ですから、一応出して下さい。それから日本伝統鍼灸学会に出席した人も1人1万円ということで。ただ、上限が20万円までですから、30人になるとちょっと減って来ます（笑）。まあ、本当言うと全員出席していただけるとね、大変ありがたい。

それからですね、弦躰塾から今回初めて芝原先生が発表したんですけども、まあ今度は

ね、誰か有望な人がですね、習うだけじゃなくて自分が発信するというね。臨床でも何でもいいですから、ひとつそういう癖をつけて。弦躰塾に行くばかりというのはあんまり面白くないです。そういうことで非常に盛会でありました。来年は第30回の学会が東京で開かれるということです。で、11月に開かれますので、弦躰塾は11月は無しと。で、12月に繰り下げます。後で発表したいと思います。それから「開業百日の苦しみ」というのが出ていますが、これは医道の日本に出す原稿「開業の頃はこんなだった」ということなんですね。まあちょっと皆さんに、どれくらい私が苦勞したかと。あんまり苦勞、苦勞と言いたくないですけどね(笑)、言いたくないですけどやっぱり苦勞ですから。それで、少しお話をまあ。

開業百日の苦しみ

42年前ですね。で、4月28日に開業したんですが。その時は私ひとり、それから母がおりまして、そのまた母がおって3人暮らしですね。だからまあ、生活したいというのが精一杯のことでして、高邁な理想があったわけじゃ無いですね。とにかく生活したいという。で、10年結核で療養しましたのでですね、開業すれば患者さんはすぐ来てくれると私は思ったんですよ。これは不思議なことで(笑)。非常に甘いですわね。で、腕があると思ったんですね。それはね、師匠が私を誉めるんですよ「おまえ上手い」と。それを本気に(笑)、真に受けましてね。で、師匠を見てると上手いんですよ、治療がね。沢田流でしたけど実に上手い。で「あれぐらいは行かんでも半分位は行くだろう」と思ってましたんで、開業すれば誰かれ来てくれると思ったんですけど、なかなかそうは行きませんわね、ええ。で、新聞の折り込み広告をしたんですよ。最初の日が1人。私の小学校の同級生のお母さんですね。で、これはですね、今も憶えているんですが、甲状腺のホルモンの出ない病気「粘液水腫」ですね。これだったんですよ。で、「応援しますよ」と言ってくれたんですが、本当に死ぬまで応援してくれましたですね。で、1人あったり2人あったり。ところがですね、5月の24日からずーっと患者が来なくなったんですね。で11日来なかった。で、また1人あったり2人あったり。それからまたずーっと16日間。これはやっぱりこたえるんですよ。私は呑気な方ですけども、まあ非常に落ち込みまして。鬱病にはならなかったんですけど、鬱病になりそうになると外に出て畑の草取りをするんです。本ばかり読んでたってね、頭に入らないですよ。その、患者さんが来ない時は。今でもやっぱりね、患者さんが多い時の方が勉強出来るんです。これ不思議なものでしょ。ですからまあ、鬱病にはならなかったんですが、3ヶ月過ぎますと少しずつ増えて来ましたね。で、8月に入って32人。9月が28人ですね。そうすると11月頃になったら72人になっ

たんですね。「これは行けるな」と。それからお見合いの話がありまして、すぐ飛びついた（笑）。お見合いは初めてなんです。青春時代が無いですからね。だからまあ「最初に見た女性が一番良いのかな」と（笑）。で、彼女が「嫌だ嫌だ」と言うのを仲人が無理矢理まとめてしまったんです。「そげえ（そんなに）言われるなら（求められるなら）行ったほうがいいのでは」ということで来たのがうちの母ちゃんですね。まあ一回も離婚騒動が無かったですから、相性が良い。で、やっぱりですね、今考えてみるとなんか「積極的に攻勢に出るといような姿勢が無かった」ですね。向こうから来るのを待つと、そういうことなんですけれども。隣ですね、私の所はその頃は高田村と言ってたんですが、その隣の村に松岡村というのがあって、ここに前田さんという鍛冶屋さんがありました。私の親父のまあ子分といいますかね、非常に世話をしてるんですよ。うちの親父は世話好きでね、いろんな人の世話をしてるんですけど。で、要するに「大変命を助けてもらった」と。「今、生活出来るのは親父さんのおかげだ」といつも言ってるんですね。で、お墓参りに来まして私が開業したというのを知りましてね、「もう何回もお父さんに御恩になったから、よしあんたを応援しよう」と。で、「私の処を貸すから出張治療しなさい」とね。まあそうですね、2キロか3キロ位かな。で週に2回来ればいいし家賃はいらないうことでね、それを渡りに舟というかね、5年間位続けたんですね。これでまあ松岡地方の患者さんが集まって来てくれたんですね。まあその私は親父のお陰で助かったようなものですね。だからやっぱり人間は誰でも、（人を）助けられる時は人の為になるというね、そういうことをしておけば自分に返って来るだけじゃなくて、子孫にまで影響するということが分かるんですけども、非常にありがたかったですね。今考えても、その人が私にとっての一番の恩人です。で、その人がですね、松岡の有力者を呼ぶんですが、4人ぐらいあったんですね。で、「実は私が世話になった人の息子さんが開業したので応援を頼みます」ということでね、一人が安部さんというですね、自民党県連の婦人部長なんです。これがなかなかやり手なんですね。私はもう、選挙は嫌いですけども。で、酒屋の奥さんで鍼が非常に好きといいますかね。往診してたんです。往診というのは最初は自転車ですからね、大変ですよ。で、しかしこの人がまた患者さんを集めてくれたんですね。金があるしね、世話焼きですから、言えばどんどん集まるんです。「あんたも鍼しろ、鍼しろ」って無理矢理人に押しつけるわけですから。こういう人がいないとやっぱりね、なかなか一個人の努力では如何ともし難いということがあるんですよ。だからこの辺になるとね、私は人の力というよりも「何かの縁」というかね、先祖でも兄弟でも親戚でもそういう縁が非常に関係してくるなというように私は思いますね。で、その安部さんという人のお友達で小仲さんという、今の県の会長さんと同じ——同じ字画ですからね、小仲姓は多いんですよ。で、小仲おだいさんという人がおってね、非常にその、女性ですけども親分肌でね、言うことがきけるわ

けですね。それでそのまた友達を呼んで治療させるんですね。で、この人はですね、お世話になっていたところが電話がかかって来たんですね。で、なんかこう言うとの事がおかしいんですよ。どうも喋り方がおかしいので「それは中風じゃないか」とすぐに飛んで行きます。右の半身不随でしたね、脳卒中ですから。私が世話になってる人ですからね、早く行って、一番最後にまた往診と2回行くんですよ。治療代は一回でいいからと。そしてですね、パッと1ヶ月で治ったんですね。きれいに治ったんですよ。その頃ですから今から40年前ですとCTもMRIも無いんですよ。だから脳の手術なんか全く考えてない。で、お医者さんは往診してみてもですね、半身不随だと。「これは脳卒中やな」と。で、血圧が高いと脳溢血と言うんですね。血圧が低い、顔色が青白いと脳軟化症と言うんです。で、後は何するかというと、じっと安静にしとかせるんです。何もしないですよ昔は。今はリハビリと言ってますが（当時は）何にもしないです。で、私は一番最初に脳卒中で頼まれた時に、すぐ治るなと思ったけどもなかなか治らないんですよ。だけど、1回や2回じゃ治りませんからね、これは長い病気だということは間違いありません。「この病気は経済的にはいいな」と。すぐそう思うんです（笑）。高邁な理想なんかあるもんじゃない。計算するんです。だから月に10回は出来るから、そうすると10人やると100回分の治療代が出ると。これは生活出来るなとかね、そういう馬鹿なことばかり考えるんですが。やっぱり何回か治療するうちに、上手くいく場合もあるし上手くいかない場合もある。それで何かなということではいろんな試行錯誤して考え出したのが治療の原則なんですね。それはその、脳卒中で倒れた時はすぐに治療したらいい。今日倒れたら今日やるんですね。これは今でも通用しますから、皆さん記憶しておいて下さい。もう直後にやる。但し、手足だけ。そうしますと両方の手足をやるんですね。まあ大体、肝虚証が多いですから曲泉、陰谷、足の三里、陽陵泉。そして指間穴ですね。それから手もですね、曲池、手三里、四渎、指間穴、郄門とこういうところですね。で、その頃は鍼を結構深く刺していたんですが、もう響かせないと。ビビッと響くとですね、患者はこう反応しますから、そうすると頭に良くないと思ひまして。今ですとまあ超浅刺ですね。これなら上手くいく。

小倉から弦躰塾に見えている笹良先生。あの先生は頭の中にすごい出血があった患者さんをですね、この手足の治療、それから超浅刺でかなり、私なんかびっくりするぐらい良くなったと。で、出血が引いてたという話をしてみましたけどね、手足が非常に良く効くんですよ。で、今私はね、眼底出血の患者さんを診てるんですが、左の眼底出血がある。で、ちょうど医大で診てもらったんですが、出血が大きいのでちょっと手がつけられませんかと言うんですね。普通ならレーザーで焼くんですけども。手がつけられないから様子だけ見ましようということ。この人は治療をし始めたら、全然見えなかったのが見えだした

と。でパッと手をあげると指の動きが分かる。最近は数字も分かるんですよ。まだ中心がちょっとね、引っかかるんで見にくいと言う。これは要するに眼底出血が鍼で吸収されたんですね。吸収されないと見えないですから。非常に鍼というのは出血を吸収させるという働きもあるわけですね。で、脳卒中に話を戻して、経過がいい時は1週間目ぐらいから肩とか腰に。それまでは手足だけ。それから後ろ頸がですね、これが危ないんですよ。ここにやると特に悪いんですね。だから時々脳卒中の人で後ろ頸が悪いという人があるんですよ。ここが凝るとね。そういう時は風池あたりに皮内鍼を入れるか、耳のめまい点到皮内鍼。これは良いですね。普通の鍼をここにやるのは良くない。それから他動運動ですね。これは医道の日本の「脳卒中に打ち勝つ」という本があったんですが、まあ今は絶版になってますけどね。それにこういう運動をするというのがあるんですが、まあ私はそれを見て、簡単な指の曲げ伸ばしを他動的にやるんです。こう伸ばして曲げる。手首を、それから肘をこう曲げると。それから足もそうですね。簡単ですわ。で、それだけやるとものすごく良くなるんですね。これはまあ非常に簡単だし、パッとしたら5分か10分で済むんですよ。私はあの頃1時間ぐらい治療してましたからね、10分ぐらいでは申し訳ないなと思って2回行くようにしたんですけども。これが非常に良かったですね。これがしかしですね、最初に私は沢田流の治療をしてましたからね、どういうふうに治療していいか分からないんですよ。だからもう、それこそ試行錯誤ですね。で、代田先生の本を読みますとね、倒れて3週間目から治療するとあるんですね。灸が主体ですから。それまではじっとしとくという。じっとしとくたって、私ら金が欲しいわけですから(笑)。収入が欲しい。で、まあやってみたんですが、要するに今言ったようにね、治療の方法というものを考え出した。で、この頃は経絡治療をやっていませんでした。後には経絡治療を取り入れて、本治法を主体にして組み立てたわけですけどね。まあ今はリハビリと。まあ、私のやり方に西洋医学が近づいてきたというような事なんです。その頃は全然こういうことをやっていませんでしたからね。

それでまあ往診ということで自転車で行くわけですけどね。最初は中古を7000円位で買ったんですけど、41年前に。それから何年かして新車、といっても自転車ですが、それを5年位乗りました。病み上がりですからね、大変ですよ自転車で行くというのは。もう坂道のあるところは大変です。丹生というところがある。大概まあ患者さんがあれば一人なんですけど、その世話好きのおばさんがおるわけですね。で「私、近所の人を呼んでくるわ」と言って5~6人も呼んでね、私にとってはすごい数でした。でまあ、「私は最後でいいから御飯食べち帰りよ、御飯食べてまたしてもらおう」と。私は他所で食べられないんですよ、つかえて。どういうふうに食べたのか今もって憶えていないぐらい気の毒だ

ったですね。恥ずかしい。それをまあ金欲しさにぐっと我慢してね（笑）。そういう苦労があったのね。



開業当時の苦労を語る首藤先生

それからですね、結構失敗したんですよ。慎重に見えてもなかなかですね、のんきなどがあるんですね。一番最初の失敗は貧血を起こしたんです。私の第一号の患者さんの息子さんは同級生ですが、「すろう手」で来て。今考えたら手首の腱鞘炎ですね。で、寝てやりゃあいいのに座って鍼したんです、一番痛い処に。で、ビリビリとさせたもんじゃからね、貧血起こして「あー」と言って倒れたんです。あれは今でもやっぱ貧血起こすのは気持ち悪いですね。あれにはびっくりしました。すぐ良くなったからいいものの。もう、彼は滅多に来ませんね、治療に。怖いんですね（笑）。いっぺん失敗したらね、その失敗した人が続けて来るというのはあまり無いですね。考えて見るとね。だから失敗しちゃいけないよ。貧血は悪いですね。あの、貧血というのはどこでも起こるんですよ。腹這いで腰に鍼をしてビリビリっと響かせたら、その人が「はい、終わり」って外まで出たところで貧血を起こしたんです。お腹に鍼しても貧血起こす人があるんですよ。それは本当は鍼が嫌いな人なんですね。だから座って肩にするから貧血を起こすと、それだけではないんですよ。だからもうビリビリはさせない。超浅刺が一番良い。それからね、すぐ近くに肩凝りで往診に行ったら、これまた貧血を起こしたんですね。「心臓が苦しい、医者を呼んで」って。その頃はあまり医者はいませんでしから、私のかかりつけの医者を呼んで。で、医者が来て「こんなの大した事ないから」と言ったらそれで安心したんですね。翌朝また行ってみたらですね、何ともなかった。やっぱり嫌ですね。特に文句言われたりするとね。それからリウマチの患者。この人は鍼が好きなんですよ。筋肉が非常に柔らかいもんでね、鍼が刺し良いわけですよ。筋肉質の人と違って刺し良いからもう何本も刺すわけですよ。で、

深いんです。そしたらね、終わりにパーッと熱が出た。あんまり良い評判ではなかったですね。悪い評判はすぐ広がる。だからあれやこれやで非常に失敗しましたね。で、喉頭癌の患者さんを治療したんです。これは難しいんですよ。今私が治療させてもらっても難しいと思うんですが。その時は気持ちが良いけども、「翌日に熱が出たから止めてくれ」と。それから高熱の患者さんですね。風邪をひいて熱が高いと。これは難しいんです、高熱の患者さんはね。今でもまあ、熱があると私は緊張しますけど。いっぺんやってみた事があるんです。そしたら「気を失うくらいに悪くなって、入院した」と（笑）。まあ難しい時はやっぱり断るというのも一つの手です。私は出来ませんと言うよりも、これは鍼の範疇ではありませんと言っておけばいいですね。もうちょっと症状が軽くなったらそれが出来ますよと。で、まあそういうことでしたけども、今考えてみると鍼灸師を止めなかったというのが良かったですね。私の師匠はもう、あんまり患者が少ないんで「お前はもう鍼灸師を止めい」と言うんですよ。うちの師匠は短絡的でね、自分が鍼灸教えとって、もう止めいと。止めろって言われても何もすることが無い。体力があれば畑もするんですね、畑はあるから。体力は無いしね、そろばんも出来ない。で、口が達者なら外交もするけど、そんなことも出来ない。しょうがない。もうしょうがないのでしがみついて来たらまあやっとな、今になってみると良かったなと。一番困ったのはね、その世間知らずですわね。皆さんと違ってどうも世間が分からないんですよ。まあ今でもよく分からないで困っているんですけども。しかも人と話が出来ないんですわ。今はもうね、喋るのは半分商売みたいでやっていますが、これは必要上こうなったんですよ。最初は話が嫌いでね。で、人前に出るともう、特に若い女性なんかおると口がもぐもぐして粘りつくんです。あの人は何を言うのかなという感じなんですわ。で、困るのは患者さんが来た時にね、喋ってくれる患者さんはいいんですけどね、向こうが喋らないでこっちが黙りますとね、黙りと黙りの勝負みたいなんですわ（笑）。「あっこ行くのはいいが間が持てんわ」と皆言い出すんですよ（笑）。今はうちの母ちゃんが喋るから、これは間が持てるんですけど。うちの母ちゃんはよう喋るんですよ。まあ非常にあの、頭が良いのか悪いのか分かりませんがね。字を見ると頭が痛いと言うんですが、何でも聞いた事は入ってるんです。何年前の事でも皆入っている。で、患者さんに「ああでもないこうでもない」と、患者さんはびっくりするんです。「わあ、奥さん頭良いなあ」と。すごい頭なんですわ。ですからまあ、今はいいんです。今はいいんですけども、その頃は私一人で治療してましたからね。20年位ずっと一人でやってきました。だから「これはいかんな」と思いまして喋る勉強をしたんです。喋る勉強を。こんなこと誰もしないでしょ。これはまた大事な事なんです。で、どういう事をするかとまあ、いろいろやってみたんですけどね、例えばNHKのアナウンサーがニュースを言うんですが、その後をつけてみる。そういう練習もしたんですよ。で、一番良かったのは「表

現読み」というのを本で読んだんですね。自分の好きな小説を声を出して読むんですよ。最近はその、「声に出して読みたい本」とかあるでしょ。あれが良いんですよ。昔の小学校では「読み方」といって声を出して読ませた。で、私はいろいろ読んでみましたが、読んでいると「この小説、この作者の文章は良いな」というのが分かって来るんですね。一番良かったのは夏目漱石、最近では池波正太郎ですね。あの、鍼灸では首藤傳明が一番良いという(笑)、評価が高いんですけど。そう言われたんです、東京で。文章が一番上手いと。話半分にしてもね、そういうものを読んでも、いつのまにか頭の中に言葉がインプットされるんです。語彙が。で、ひゅっひゅっところ出て来るんですよ。だから大体私は喋るよりも書く方の才能というのは少しあったのかなというのがね、小学校の時に作文を書いてどっかで入選したことがあるんですよ。ですから、そういうその文章を声に出して読むということの相乗効果で良い文章が出来るのかなと思うんですけど。非常に良い効果が出ますね。だから皆さんもね、人前で講演する事が無くても患者さんに説明するという時とかね、なんかいろいろ交渉する時に必ず有益なことなんです。だからこれは何でもいいんですよ。今日、野上先生の講義の中のね、『素問』でもいいんです。黙読ではなくて声を出して読むというのは非常に良いんですね。で、素読というのを昔から大事にして来ましたね。今は素読というのはいないですけども。例えば7歳位の子供を、昔は前に座らせて論語の素読をさせたわけですね「師曰(のたまわ)く」と。で、分からないですよ子供だから。分からなくてもいいです。そうやっていくと大人になって分かって来るんです。ぽっぽっとして出て来るんです。これが一番良かったですね。で、テープに録って聞いてみるんです。そうすると、私の喋り方は速いんですわ。今でも夢中になるとパパパッと速くなります。うちの母ちゃんはまだ速いです。「お前、何言うてんのか」って(笑)。で、そのお父さんが速いんですわ。これは遺伝ですかね。私の所はもう速いこと速いこと、息がブアッと(笑)。そういうことでですね、いろいろ自分で練習をして、そしてまあ患者との話が少しでも出来るようにという努力をしたわけですね。

で、鍼はですね、その頃私の師匠の鍼というのは寸3の昔の鉄ですよ、ステンレスじゃなくて鉄鍼ですから。2、3日ほうっておくと錆びてくるんです。それをペーパーで磨いて鹿皮でこうね、磨きをかけて。まあ10本位を患者さんに使ってたんですからね。不衛生です、非常に。で、医道の日本の新1番というのを使ってたんですけどね、あまり患者に鍼が痛いといわれたことはなかったですね。けどもお灸はね、やっぱり熱い。私の師匠はお灸をすえると、その周囲を指で搔いてたんです。これもまあ熱い。あまり熱さが気持ち良いというほどではないですから。私が今やってるのは、お灸の周囲を人指し指と親指でキューッと押さえるんです。真剣にキューッと押さえる。で、もぐさのすぐ近くですから

指が真っ黒に焼けるんですよ。私が往診して一人でやってた時はもう人指し指と親指の先が真っ黒だったですね。煙草のヤニみたいに。それをキュッキュッと押さえるから。それは熱くないですね。これは沢田流のね、城一格先生という人があるんですよ。沢田流の高弟でね。代田先生よりまだ上のお弟子さんなんですけど、その奥さんがやってたというのを本で読んだことがあってね。それでやってみたらこれは熱くないですね。気持ちが良いですから。だから今でも患者さんでね、お灸が嫌いという人があるんですよ。で、熱くなければいいと言う人はそういうことをやって、もう熱くなくても嫌いと言う人はね、まあそれは無理矢理お灸しなくてもいいです。で、鍼が嫌いと言う人もあるんですよ。「私の鍼は痛うねえんじやけど」と言っても嫌という人はね、もう無理矢理はしません。「お灸だけで」と言われる時はお灸だけやります。で、ちょっと残念だなと思ったのが、暇ですから勉強するんですが、要するに生理、解剖、それから代田先生の本ばかり読んでいた。今考えると古典をやれば良かったなと。分からなくてもやれば良かったんですけどね。まあ古典というのは膨大ですからね、基本的なものでもやれば良かったと思いますけど、もう後の祭りなんで、この次生まれた時は最初からやろうかなと思っているんですけど（笑）。もう今はちょっと遅いと。で、治療室はですね、私の家は親父が建てたんですよ。だからやがて築100年になるんです。で、まあその頃はですね、暖房が無いから困ったんですね。暖房がもう全く無い。唐津の火鉢に炭をおこしてやるけど、これはね、危険というもんじゃないですね。そのうち灯油のストーブで、こうやってポンプで押すとファーッと出て来るのがある。あれはなかなか難しいですね。その後、最近のような芯のついたストーブですね。それから後、ヒーターと。だから私の治療で一番これが助かったなということですね。私は手が冷たいんですよ。手がね、ものすごく冷たいです。これは結核やって以来なんです。だから鍼をするのに困る。冬になるとついつい指だけで押さえるような感じになってね、これでだいぶ損をしたですね。大体、手のひらをピタッとくっつけて、そして鍼するものです。それがこういう感じなんですね。それで往診するときは手袋の指先だけ切るんですよ。でここだけ出して。そういう苦勞ですよ。

で、休みは患者さんが無い時に休むということでやってましたからね、頭が痛みだしたんですね。こう頭の芯が痛みだして、「まあ今日はちょっと大分の街中に出るか」と何の気なしに出たらですね、まあ暑い日で眼が回りだしたんです、バーッと。で、びっくりして帰って。それからまあ、めまいは少し取れたんですが頭の奥の方がなんとなく悪いですよ。で、師匠の所に行ったら百会に鍼を刺してね、水平に鍼を入れて、入れっぱなしにしてね。これはまあ気持ち良かったですね。だからこれはメニエール病やめまいの時のですね、定番に顛会というのがありますけど、そういう経験があったんですよ。だからやっぱり「あ

んまり休み無しに働いちゃいかんな」という事で1週間に1日の休みを取るようにしたんですね。それまではですね、正月であろうが盆であろうが患者さんがあればいいわけですからね。盆正月は割と患者さんの仕事が休みですから「鍼しとくれ」というのがあるんですよ。これはもうとにかく、金が儲かれば何でもいいというようなことですね。それで（昭和）34年に開業してですね、36年が月に70人位。それからだんだん多くなって150人位ですね。平均して100人位の患者さんですね。100人あれば大体生活が出来ますからね、そこでバイクを買ったんですね。50ccのホンダのバイクを。今で言う外車みたいなもんですから（笑）。その頃は皆バイクに乗ってなかったですけど、それを買ったもんですからね、患者さんは「うわあ」というぐらいびっくりしたんです。来月の医道の日本にこれ出ますわ。私がバイクに乗って、（往診）カバン下げてね、郵便配達みたいな格好して。32、3歳のね、非常にあどけない顔してますね（笑）。「え、これがあんたかい」という顔を。それでまあ、非常に往診が楽になったんですね。ところが雨が降ると困るんですよ。だから朝起きると必ずこう上を見るんです。「ああ、今日もまた雨かな、雨だと合羽着ていかにゃいけんな、うっとうしいなあ」と。で、そのうち軽四自動車を買いました。この時は嬉しかったですね、雨が降ってもいいと。これはやっぱ、今なら外車の一番良いのを買ったような気持ちでしょうね。そのかわりですね、往診というのは非常に非能率的なんです。ボヤッとしてると大体一人やってその次の家に行くまで1時間かかるんですね。そうすると午後から始めても5、6人しか出来ないんですよ。だから多い時は忙しいんですよ。スパーッとぶっ飛ばすんですね。「お前、飛ばすなあ」と同級生は皆言うんですから。今いう暴走族みたいな（笑）。治療が済んだらすぐ帰る。「お茶飲まんかえ」、「ああ後でいいわ」。「お金は?」、「またもらうわ」って（笑）。もうぼやぼやしてるとね、すぐ30分ぐらい話し込まれるんですね。それから考えると今はもう往診しないですからね、非常に楽というかありがたいというかね。で、なぜ流行らなかったかということ考えたわけですね。それはやっぱり田舎ですとね、昔は鍼とマッサージはセットなんですね。そこに鍼専門で殴り込んだって、上手ならいいですけど下手くそですからね、これはもう如何ともし難いんですね。それから交通の便が悪しね、バスは午前中1本ぐらいですね。といっても遠方の方は来ませんからね、それはどうでもいいんですけども。私んとこの高田という所はですね、宇藤さんという元盲学校の校長先生をした人がちゃんとお得意を持ってるんです。だからね、そうはなかなか上手く行かないですね。で、さっき言いましたように喋るのが下手だし、奥さんが無い。で、奥さんが無いというのは今頃はいいですけどね、その頃はね、一人前とみなさないんですよ、奥さんがいないと。そういうところもありましたしね。鍼が下手だったと。それから積極的な考えというか、打って出るような度胸が無かったですね。まあ、例えば企業なんかに行ってですね、「私に鍼させて下さい」とか言えば

いいことですけどね、そういう事もしなかった。まあ一言で言うとね、下手くそ（笑）。下手くそと社交が下手という事ですね。まあしかし、今はかなり流行ってますんでね。体力的にちょっときついなという位、7時間位やるんですよ。なぜそういうふうにならなかつたのかという事を考えてみるとですね、やっぱり「全てに真剣だった」ということですね。それから何年か前から使い始めました「忘己利他」という、やっぱり人の為にやろうというボランティア（精神）ですね。この気持ちが良かったように思いますね。それと喋り方の勉強をしたためにですね、患者さんの説明が上手になったですね。非常に優しく分かり良いように。これはかなり難しいんですよ、患者さんが分かるようにね。硬い言葉ですと患者さんはあまり反応を示さない。分りやすいように、「なるほどな」というような説明はですね、皆さんも考えておいたほうがいいですね。医学用語をそのまま話したって患者さんは分からない。なるほどというような説明の仕方をまず勉強することですね。まあ、技術は下手でしたけども、真剣さがあるというのが患者の心に響いたのではないかと。で、なんか応援したくなるような雰囲気があつたんじゃないかと。母性本能をくすぐったような感じがするんですね。私は非常に若く見られましたからね。40過ぎても「奥さん世話しようか」と言われるんですね。昨日も「先生、おいくつですか」って、だいぶ若く見られたんですね。それで「ああ今晚は一杯よけいに飲もうか」と言ってゆうべは飲み過ぎたんですが。

そういうことでね、まあ真面目であつたということが良かったんじゃないかというふうに思いますね。で、学会で発表しました「鍼で心を治せるか〜超浅刺の世界」。これは岩田さんがスライドを作って来たんですね。で、このスライドにちょっと説明をつけてありますが、要するにその時に発表したのはですね、今は疲れの人が多いと。精神的な疲れの人が多。それから鬱が多い。で、それはなぜかということ、西洋医学的には脳内ホルモン、セロトニンとかね、そういう脳内ホルモンの出かたが悪いということだと。で、そうすると超浅刺をやるとですね、そういう脳内ホルモンが、適当なものが適当なだけ出てくると。これは仮説ですよ。で、東洋医学ではこういう鬱とか疲労とかいうのは、精神五臓論にあるように内臓の不調和によっておこると。そうすると、この経絡治療で各臓、経絡臓腑の調整をして、超浅刺を使うと内臓が調和されると。それで良くなるということで、真にその通りなんですよ。非常に良く治るので、この技術をやってほしい。

それから今はこういう時代で日本の、特に開業した鍼灸師は生き残れるのかどうかという疑問というか悲観的な考え方があるわけですけども、これは一番最後ですね、7ページのスライド29と30。アメリカのですね、鍼灸の患者さんを見ると。アメリカの後藤学

園の付属の診療所に来る患者さんの主訴の統計です。一番多いのは不眠症とかね、ストレス障害。2番目は胃腸障害ですよ。で、3番目が慢性疲労症候群。で、肝臓とかね、糖尿とか。で、8番目に運動器疾患が来ている。で、日本の統計を取るとね、1番は腰痛ですわ。で、2番目が肩凝りで3番目が膝の疾患になる。必ずそうなるんですよ。だから私はこれが良くないと。で、アメリカのような鍼灸の患者層になってくると私はいいと。だからこれはアメリカの患者さんが偉いですね。日本の患者さんはあんまり偉くない(笑)。まああの、鍼灸師も悪いんですよ。こういうその疾患はあまり扱わないからね。患者さんは知らないんですから。知ってくるとやって来ますよ。だから私の所はかなりこういう患者さんが多いんですけどね。で、運動器疾患だけじゃなくて、今いうその精神疾患とかね、それから内臓疾患と、他の疾患の方にも皆が手を出して、それが上手になれば非常に患者層というものが多くなって来る。それから2番目が「超浅刺」を使う。それから時々私が言っていますね、「気至る」というのが分かるということ。「あ、来たな」というのは誰でも分かるんですから。ぼやっとしてると分からない。だから頭の中に「気至る」ということを心がけながらやっているとわかって来るんですよ。いっぺん分かれば、もうずっとわかりますから。それから「忘己利他」のそういうボランティアの気持ち。この4つの条件があれば必ず流行ると。流行るというよりも、もう患者さんが多くてしょうがないから、疲れが出て精神疲労を起こすんじゃないかと私はそう思っているんです。だからひとつ、こういうことを考えてやれば将来は非常に明るいということをお話したわけですね。間違いはないです、これは。本当に間違いはないですね。で、私は何時の頃からこういう結論になったのか分かりませんが、自然とこういう結論になってしまったんです。例えば4番目の「忘己利他」というのはですね、治療の問題だけじゃなく人生の問題だと私は思うわけで、(これを実践すると)非常に幸せな環境になって来ると思うんです。ですから流行るだけじゃなくてね、全てが調和すると世の中が明るくなるというふうに思ってますんで、皆さん方もこの考え方を参考にして戴きたいという気持ちです。

えー、今日はちょっと私の苦労話から自慢話へとなりましたけど(笑)。たまにはいいですわな。こういう自慢話もたまには聞いてもらわないとストレスが発散しない(笑)。

今日はですね、野上先生にお願いしまして、今年最後ですから忘年会をやろうと。これが終わったら一杯飲んで、ワーワー言うて、悪口の言い合いをしよう。で、今日だけは塾長の悪口言うてもいいです(笑)。以上です。

素問の解説

えー、野上先生が分からない事は私も分からないという（笑）。なんか何を言ってるのかわかりませんね。だからこれはその時代の人の書いた文章でして、いろいろやっていると「ああ、そうなのか」と分かることがあるんですよ。で、私は「精神五臓論」というのを、非常に難しい、何言ってるか分からない文章というのを臨床から易しく説きましたけどね、そういうことなんですね。だから、何かを言ってるんだろうと思いますが良く分からない。ただ、その前の「陰陽応象大論」のところで、「病の始めて起こるや、刺して已（い）ゆべく、其の盛なるは衰うるを待ちて已（い）ゆべし」というところがありましたね。私は岡部素道先生にですね、「坐骨神経痛の時にもう痛くて痛くてしょうがないと。で、いくら鍼しても良くならない時はどうしますか」と言うたんです。そしたら岡部先生がね、この処を引用して「病の衰えるのを待ちて治療する」と、そう言うたんですよ。で、私はね、そんな悠長な事を言っておられないんですよ。「私は今すぐ痛みを取りたいんです」と言ったけどね、答えてくれなかった。で、そういう事を言ってるんです。これはひとつの治療のテクニックと言いますかね、あまりひどい時はいくらやっても治らないから、ちょっと病気が下火になって治療すると。これはまあ、卑怯なやり方ですわね。私は正直なほうで、何とかこれに挑戦したいというのが超浅刺です（笑）。

で、そうなんですよ、もう坐骨神経痛でね、ヘルニアでもうズキズキして、大概是横になれば痛みは楽になるんですけども、どうしても横になっても痛い痛いという人があるんですよ。で、なんとかしたいと思ってそっとやってみたらピタッと止まったんです。これは非常に超浅刺が有効で、しかも要するに圧痛点のところをツーツーツとやってるうちに（痛みが）スーッと消えちゃうんですね。これはもう私はびっくりしましたから。で、後は本治法をやればいいわけですね。但し、それはですね、大概2時間位しか効かないんです。最初に言うとかんです、「長く効きませんよ」って。で、また来るんです。痛みが止まるから来るんですよ。で、金のこと言うちょられんしね、痛い時は。借金してでも来ると。だから「先生、もうちょっと長く効かんの」って言うけど、だんだん効くようになるんです。で、しまいには1日もつようになる。そうすると「4、5日か1週間後に来なさい」とか、ちょっと間あけてもいいわけですからね。そういうふうにして、私はこの説には反対なんですね。岡部先生の説にも反対なんで、それをあえて挑戦したから今の超浅刺が出来たと（笑）。お笑いであります。

取穴

えー、後で超浅刺を皆さんにやってもらいますけど、今日はまず最初はですね、肩髑ですね。この肩髑は滅多に使わないんですが、ひとつだけ使う時がある。それは外転障害ですね、こう手を上げる時に痛い。それから転んで手をついた時に、どうしても自力では上がらない。片方の手を添えて、引っぱってやるとスッと上がるけど、なかなか上がらないという時が棘上筋腱の損傷です。棘上筋腱というのは上腕を外側に引っぱり上げるという働きをする筋肉ですが、えーっとですね〔黒板に肩の図を描く〕この骨が肩峰ですね。この下にある筋で、この上腕骨にくっついているんですね。で、外から反応、硬結とか圧痛を診ても無いんですが、この肩髑の、上腕骨と肩峰の間にこう鍼を入れる。こればっかりは超浅刺は駄目なんです。寸3いっぱいいっぱい入れれば入れていいんです。ここはなかなか入りにくいですよ。だから私は1寸を使っています。1寸ですと大体ずーっと入っていくと。これがスーッと入ったら3、4回雀啄を軽くやるんですね。そしてこう手を上げてみると、必ず外転が楽になってます。今日はそれをひとつ。取穴は簡単ですが鍼も刺してもらいます。上手く行くかどうかね。



肩髑の解説



患側の肺・心臓付近

で、弦躰塾もだいぶ金が余ったんで、(鍼を) 1000本仕入れてありますから(笑)、皆さん使って下さい。で、一番凹んだ所を探るということですね。それからせっかく来たんですからね、ひとつ覚えてもらいたいのは、夜中にですね、猛烈に肩が痛み出すというのがあるんですよ。でもう、ちょっとも動けない。特に中年の女性ですね。で、そういう時はこう動かしてみると動かない。その時にこの関節の周辺を触って診ますと、熱があるという時は炎症ですね。ですから肩の関節炎ということでそれは話は分かるんですが、そんなの無いと。で、よく診てるとその肩髑の少し下の方ですね。1センチぐらい下。それからその少し前のほう。この辺に少し腫れっぽいところがあって押さえると飛び上がるよ

うな痛みがあるという時があります。これは石灰沈着性の肩板炎ですよ。石灰が溜まる。昨日来た患者でそういう人があったんですけどね。で、大概それですよ、私が治療すれば治るんです。どこを治療するかというと、本治法やりますわね。まあ例えば肺虚証で太淵をやる。それから背中ですよ、患側の肺俞から心俞、督俞あたり。この辺ですよ、ゴリゴリが出るんです。ゴリゴリした硬結が。こう横にゆすってみるとつっぱりが出ます。だから肩甲骨のちょうど真ん中あたりの高さですよ、ここら辺が一番良く出るんですよ。で、これに多壯灸をするんですよ。これはね、鍼はどうも上手くない。いろいろやってみたんですけども多壯灸が一番良いですよ。20、30、50、100、1000位でも(笑)。まあやっぱり50位。そうすると不思議に効くんで、そこのまた痛いところ(局所)にも鍼とお灸と皮内鍼を入れる。これで大概治るんですよ。翌日は良かったと言うんですけども、その患者さんは治らないんですよ。で、2回来たけど治らないんですよ。どうもやっぱりこれ石灰が溜まっている恐れがあるから整形外科で抜いてもらわないいけないんですよ。そしたら2、3日したらまた来たんですよ。で、まだ痛い痛い。「抜いてもらったの」と言ったら「いいえ、整形に行ったらこれはリハビリすればいいと言って抜いてくれない」って。それは違うって言ってね、「もう一軒行ってみなさい」と。で、もう一軒行ったんですよ。そして抜いたと。その晩からはピタッと痛みが止まった。で、なんか黄色の(滑液)が出たと。普通は白いのが出るんですけどね。で、抜いた後は非常に楽になって、その後は治療に来ています。そういうことで、この時はこういう鍼は駄目ですよ。駄目です。それはこう触ってみるとね、特別痛いところがあるのでわかります。で、この棘上筋腱にも触っても圧痛が無いですから。たまにはある。たまにこの凹んだ処にね、ちょこっと圧痛があるけども、大した事は無いということですよ。で、これ早くしないとまた治りが悪いですよ。バタンと転んで手をついた時にすぐやるんですよ。1週間以内なら非常に早く治ります。で特にここは五十肩になるんですよ。もう中年以降はもう「五十肩になりますよ」と脅しておくんです。で、治ると「ほれみなさいよ、鍼のお陰」と言って、五十肩になったら「ほれみなさいよ、予告どおり」と言ってね(笑)。

それと、これももう一つ皆さん、臂臑というツボがあります。これがね、眼にものすごく効くという。これは深谷伊三郎先生の本に出て来るんですよ。で、私はいろいろやるけど圧痛が出ない。で、駄目かなと。試してみたけど駄目でした。ところが北米東洋医学誌の中に埼玉の先生が治験例をやって。で、この臑俞が非常に良く効いたと。そのツボの取り方はですよ、曲池と肩髃の半分、そしてそのまた半分、だから4分の1ですよ。この辺にゴリゴリが出る。深谷先生はね、肩髃からちょっと行って2横指位だと言われるんですけど出ないんですが、ここなら出るんですわ。4分の1の所は。で、これのお灸が非常に良

いという。先ほどの眼底出血の患者さんはね、ここにすえているんですよ。で、この眼底出血の患者さんは、特徴的なのは患側の柳谷風池、いつも言ってます、これがもう痛い。ゴリゴリがある。これにすえて、そこだけは1センチ位入れるんです。超浅刺じゃなくてね。で、「あっ来たな」というところで留めておく。そこと、この臂臑と曲池。この位かな。この位、自宅でお灸すえてもらって、後はまあ1週間に2回、今は1回位ですけど鍼をして調子が良いということです。だからこの臂臑も覚えとって、眼の悪い患者さんが来たら試してみてください。こう押さえて行くと痛いところがあるんですよ。痛いところが良いんです。だからまあ4分の1ですけども、そういう寸法にこだわらなくていいですから。大体のところだね。



肩臑の取穴



肩臑の刺鍼



水平に2センチ刺入する

そしたらね、2人で1組みになってください。人の体ですからずーっと刺していいです(笑)。プチッと切れんように。切れたら駄目ですよ。切れると私が訴えられる。ちょっと手だけ残しておく。で、いっぱいいっぱい入るから。これが鍼体3センチですからね、大体2センチ。でこれ、つかえた場合はもう1回こうやり直すんです、もう1回触って。

受講者：先生、僕らはもっと前に取るんですが、それは間違いなんですか。筋の中と書いてあったからそこに取るんですが。

首藤先生：いや、肩峰突起があるでしょ、これと下の上腕骨とのちょうど境目です。

受講者：これがちょうど真ん中みたいに見えるんですけど、それでいいんですか？

首藤先生：これ真ん中ですよ。このちょうど真ん中。あの一ここにもひとつ出るんですね。これは前肩臑といって上腕二頭筋腱ですよ。さっき言ったような石灰沈着性の肩板炎というのはこの辺に反応が出て来る。私が言う肩臑というのはここ。この人はまだ入るな。寸6いっぱい入るわ、ぶかぶか肥えとるから。はい、ここですね。そう、上下にゆるする。そ

うそう。あの、この人は分かりいいですね。歳取るとものすごく分かりにくくなる。で、間がこう狭まって来るんです。骨と骨とくっついとるとね、間を見つけるのが大変です。その間を縫うて鍼入れるちゅう、これまた大変。

受講者：しこりみたいのがあるんですか？

首藤先生：硬いのがあるんです。で、押さえると痛いんです。だからこの線で一番硬いところを取ればいいわけです。ツボの名前にこだわらなくてね。肩貞から臑兪でね。決まってるじゃないです、私の取り方は。天宗がこれまた難しい。天宗というのは非常に幅が広いですから。はい、足を出してあぐら組んで。この肩甲骨のちょうど真ん中の下、これが普通のね。だからそれでこう探すんですわ。そうするとこの人はここへ来る。ね。正式にはここです。だけどここでは効かないです。何とも無い。で、ここに来ると「痛たたた」と。



天宗の取穴



天宗の刺鍼

受講者：こんなに違うんですか。

首藤先生：うーん、違う。だから要するにこの間ですよ。この辺に来る人もあるんですよ。ここも少し出てるけどね。じゃあ、これとこれとこれはどれが一番痛いかというと、これが一番痛いんです。その次はこれが痛いんです。その次はこれが痛い。これはあまり痛く無い。これは全然痛く無い。だから、この硬い処を探り出すというのがひとつのテクニック。で、探り出すと、要するに下手くそでも鍼をここに刺せば効くわけですよ。で、ここに刺したんじゃテクニックがあってもなかなか上手く効かない、こんだけ離れるとね。まず5ミリ以内ならまあまあいいです。この位ならね、少し位はずれてもいいんです。ここぐらいならね。これが一番効くところですよ。これですけど、ちょっとはずしてみますね。

5ミリ位はずしてみますよ。超浅刺じゃなくてちょっと入れてます。これが今はずしたほうですね。じゃあ、真ん真ん中に行きます。これが来てるんですね。このグーッと硬くなつて来る率がかなり違うんです。これ今、ピタッと当たってるんです。

モデル：肘まで来てます。

首藤先生：ね。だから5ミリでこれだけの差が出るんですね。こっちは鍼が入りにくいですわ。入れようと思ったらね。超浅刺の場合はいいんですけど、こうやるだけだからね。例えば入れようと思うとなかなか抵抗するんです。こっちはほうがすーっと入っちゃう。まあこれが一番有効。これだけ差が出るんです。これもうね、さっきよりもちょっと柔らかい。こういうふうだね、いかにツボを取るのが大事かということですね。違うところを探ればね、こことここをやった時と全然違うんです。それが硬結ですわ。だからマッサージする人は母指揉捏をする時に意識しながら揉むんです。そうすると「これが硬いのか、これが硬結か」と。そこだけ軽くやればいいわけだね。そこをはずれるともうグーッとやったら患者さんはこたえない。この天宗は非常に硬結が出易いです。そういうふうにしてどのツボも探していくわけですね。今日、私がちょっとやろうかなと思ったのは膀胱経の二行線のね、肺俞から心俞にかけて、こういう姿勢で行くんです。こういう姿勢が一番分かりやすいんです。真正面よりもちょっと斜に構えてね、こう横にゆすって行くんです。これが硬結でないところ、これは硬結。



肺俞から心俞にかけての硬結



ツボの確認をする塾生

受講者：先生、こういう時は座位の方がいいんですか？

首藤先生：座位です。座位がいいんです。腹這いでやるとね、見つけにくい。だから私は

真剣に診る時は座ってやるんです。おおよその時は腹這いでもいいです。腹這いでも結構効くんです。腹這いだとツボはまた違って来るけんね、腹這いで取ると。

受講者：座位の方が分りやすいですか？

首藤先生：そりゃ分りやすい。

〔このモデルは肩甲間部が〕みんな硬いんです。ずーっとこれ硬いですね。その中で特徴的なところを2ヶ所。だからずっとやってもいいんです。こういうのが同じ側の上半身のどこかの関節の炎症に効くんです。で、五十肩はこれが出ない、この硬いのは。五十肩以外に出る。だから関節炎とかリウマチ、さっき言った棘上筋腱炎、それから変形性の肩関節炎、それに皆出て来ますね。

受講者：なんで五十肩は出ないんですか？

首藤先生：五十肩は出ない、炎症が無いから。炎症の場合に出て来るんですね。だから五十肩と関節炎と両方入ってる人は出て来るんです。ところが治療してこれが柔らかくなると、大概炎症は取れるんですよ。で、まだ後ろに引っかかるという時は五十肩が残っているんですね。その五十肩の運動障害というのは1年たたないと取れませんよね。それを患者さんに言うとかんです。「痛みと炎症は早く取れるよ」って。「但し、五十肩がもし一緒に入っていれば、その運動障害が1年かかります。痛くないならいいでしょう」ってね。だからこれはね、五十肩に関節炎が入ってるかどうかというのは分からないですよ。それはレントゲンも出ないしね、血液も出ないです。ここで判断するしかない。

受講者：やっぱお灸が良いんですか？

首藤先生：お灸が良いです。ここはね、もう多壯灸しか効かない。鍼もやるんですけどね、劇的に効くというのは無いです。それで五十肩ですとね、少々荒っぽい治療でもいいです。運動させても。で、ここにゴリゴリが出た場合は、これは炎症があるから変な治療するともものすごく痛くなってくる。腫れてくる。

受講者：背中にそういうゴリゴリした反応が無かったら、強い刺激でもいいのでしょうか？

首藤先生：そういうことです。あまり失敗が無いですね。私は五十肩はその、指の先に鍼を入れて運動させるんです。これは五十肩によく効くんです。えーと、それではまあちょっと皆さん、入れてみて下さい。

受講者A：お願いします。

首藤先生：これはね、あまり上すぎてね、鍼が入らないわ。ここ壁があるわけで、壁の下でないとね。で、こっちもあんまり出てないしな。うーん、まあこれがいいか。だから入れ方を工夫じゃね。ちょっと下向けて入れて、こういう感じでないと。あ、上手い。入ったわ。いいよいいよ、これで正解や（笑）。

受講者A：臂臑はどうでしょうか？

首藤先生：これもいいかな。しかし硬結はここだわな。うん。

受講者A：ありがとうございます。



右肩髃の刺鍼



左肩髃の刺鍼



臂臑の取穴

受講者B：お願いします。

首藤先生：ああ、これはこれでいい。この人はね、間がかなり広いけんね、許容量があるから。これでいいです。

受講者B：ありがとうございました。

受講者C：上に異常がなかったらあまり出ないですか？

首藤先生：出ないと思うわ、うん。それも私はあまり良く分からないけど、いろいろやってみなくちゃ。

受講者 C：はい。

受講者 D：先生、結局これは中にずっと入れればよしとしていいのですか？

首藤先生：ああ、そういうことです。骨に引っかかるのが悪いんです。スルスルスルっと入ってしまえばもう、深さはどのくらいでもいいんです。引っかかりが取れば、引っかかるね、うん。明日腕が動くかな。こう入れて、こっちがはっきりと入ったという感じがないとね、なんかシコシコするところはね、あまり良くないんです。

実技

首藤先生：あと（時間が）もうちょっとありますからね。

司会：静かにして下さい。

首藤先生：騒がしくっていいです（笑）。ワーワー言うて下さい。あの、治療をします。誰か悪い人いますか。で、あまり私に治療をやってもらったことが無い人がいいですね。で、ベテランは見てると。指導して下さい。もう一人ぐらい出来ます。

モデル 1：お願いします。

首藤先生：あの、この人はね、右の背中が張るという。で、背中が張るとこの膈俞あたりがね。で、いろいろ考えられるんですけども、頸椎から来たのがひとつ考えられる。それから胸郭出口という、この斜角筋の凝りから来るのがひとつ。それと胸椎が古くなるために肋間神経を刺激するという事がひとつ。それから右ですから右の内臓としては肝臓、胆のう、それから右の肺というのが考えられるんですけど。今、ジャクソン、スパーリングやるとね、右がちょっと引っかかるわけですよ。ですからこの人は頸椎から来た背中の張りというのが考えられます。じゃあ、仰向きに寝ましょう。〔モデル、仰臥位になる〕で、まあ一応脈を診るんですが、いきなり証を決めるという事じゃなくて、こうお腹に鍼を、

超浅刺をやるんです。初めての患者さんは不思議がるんです「いや、腹は悪くないのに」って。で、うちの母ちゃんは「腹黒いから診よんのじゃ」とか言うんです（笑）。で、こうやって叩打痛がある場合はですね、これ肝臓が悪いですね。こっちはそうでもないですね。この右の不容ですね。なんか肝臓か胆のうか、というような感じです。陽陵泉を右左診てみると、右も痛いからです。

モデル：いや、そこはあまり感じないです。

首藤先生：いや、私は引っかかる（笑）。この患者は抵抗するんです（笑）。そういう時はね、「あ、あんたもう帰った方がいいよ。私と相性が悪い」ってね（笑）。これ、違うんですよ、この硬さはね。これとこれ。こっちが硬いからね。で、そういう時は「あんまり油ものは余計に食べなさんな」とかね、「酸っぱいのと一緒に食べましょう」とかそういうアドバイスを。で、右の不容にやります。これ超浅刺でいいです。こういう筋肉質の人はね、鍼を入れたら飛び上がる。これは心臓の、左梁門ですね。だから左側という時はここがおかしい。右が出た時は肝臓ですね。で、それで脈を診るわけですが。



腹診



不容の反応を診る



陽陵泉の反応を診る

〔脈診をする〕 えーとですね、沈んで遅数としては少し遅いけれど、まあ普通ですね。で、証としては肝虚証ですね。肝腎が弱い。で、胆と膀胱が強いということですね。だから曲泉をやればいいんです。で、まあ右の陽陵泉をさっき、わざわざ私が言うたからね、先にここをやります。理由づけするんです。これどっちをやるかというね。どっちから先をやりますかというのとどっちでもいいです。で、こうやるとね、曲泉の右左を診ると右の方が凹んでるんですよ。で、こないだやった人はね、漢方鍼医会の先生だったけどね、「私は側頭動脈、耳門の脈を診てね、強い方を適応症とします」とこう言うんですよ、うん。で頭はね、どっちでも一緒に右が少し硬い。で、どっちをやればいいのかと、両方やればいいですよ。今、左の曲泉ですね。で、名人がやるとこうやるとお腹が鳴ったりね、胃がスーッ

と空いてきたりします。あとは右の陽陵泉を。これはもうササッとでいい。で、瀉す時はあとを閉じないだけです。私は何年か前まで、こう入れて雀啄して柔らかくなったらパッと取ってたけど。今度学会で発表した時は1分間に400回以上ですからね。数えたって分かるもんじゃないですから(笑)。500回と言ったって分かりませんよ。どうせ数えてもね、カウント出来ないですよ、あんな速いのは。速いですよ、非常に速い。そんなことする必要ないんですから本来は。それでこう、あとを閉じないということですね。これでいいんです。これでもいいんですが、みぞおちがちょっと硬いなというような感じの時は太敦をやるんです。井穴を。非常にこれまた良く効きますね。えー、飲み過ぎた時、ムカムカする時に。で、私もゆうべちょっと、10ぐらい若いと言われたんで嬉しゅうなって飲み過ぎた。で、左の太敦にやったんです。太敦やるだけで非常に楽になった。こういう処はね、痛いんですよ。痛いけど効くんです。だから上手にやればね。痛かったですか、大丈夫？

モデル：大丈夫です。

首藤先生：まあ、これだけ入れとけばいいです。で、しばらくするとね、どんどん効いて来て頭が良くなって、胃が空いて来たと言いますから。で、なるほどグーッと音がするんですね。



腹部の鍼



脈診



曲泉に本治法

はい今度はね、うつ伏せましょう。[モデル伏臥位になる]これから標治法ですね。で、今は肝虚証でしたから、まずその見当はね、肝炎、腎炎に見当をつける。そうすると、これを見るとやっぱり右が張ってるんですよ。だからこれは慢性だろうと思うんですね。患者さんの自覚症状と大体一致する。こっち(右)はいいですね。

モデル：両方悪いんです。

首藤先生：両方悪いんですか。ああそう。最初は右って言ったですね？（笑）。患者さんにもそういう人があるんです。右だって言ったのに、「本当言うと先生、左も悪いんです」って（笑）。「両方やるんですか」って言うと「はい」と言うて。作戦が見え見えなんですね（笑）。だからそういう時は左を流すんですよ。軽くやって、右を熱心にやる。これを両方同じにやると、ここはあまり効いたという感じが無いですよ。そこらへんはね、鍼のポイントとかね、力の入れ方の差ですよ。で、下手な人はもう真剣にダーッとやる。上手なね、要領の良い人は悪い処を重点的にやって、後はサッとやるんです。そうするとものすごく気持ちが良い。これは私が40年間で気がついた。教科書には書いて無いです。これも超浅刺でいいです。で、力を入れるというのは要するに、少し長くやるんですよ。時間をかけてね。本治法と同じです、曲泉とこのツボ、肝兪。これだけ力を入れるんです。後はサーッとやればいい。



肝兪の刺鍼

それで右に1本、これ肝兪です。多分この辺りは気持ち良いはずですよ。これだけ硬いとね、慢性かなという意味で繰り返す必要があると。で、自分でやる時は曲泉と陽陵泉か丘墟か、その辺にやればこれは軽くなって来ます。で、肝虚証ですから腎兪もこう診て、今度は左ですね。この人はあまり気を使ってないですから（笑）。気を使う人はここらへんがすごく悪いんですよ。至陽、靈台、神道からね、左の心兪がものすごく悪くなるんですが、これは大したものですよ。度胸がある。で、さっきは膀胱経がちょっと硬くなっていたんで、わたしの場合はこれを跗陽か飛陽、その辺を使うんです。これもこう、さすっていくと引っ

かかるところにね。だから最近はあまり力を入れて押さえるということはない。それで疲れが無いんです。で、さっきの肝兪ですね、右の肝兪をまたやります。ちょっとこれ入れてみます。これはね、(鍼している) 私が気持ち良いんです。だから (治療を受けている) 本人も気持ちが良いんですね。1センチよりちょっと浅い位ですかね。で、これにお灸をすえるといいですね。



跗陽に刺鍼



座位で背部に刺鍼

はい、ちょっと起きましょう。向こう向き。〔モデル、座位になる〕今度は大丈夫ですね。で、まあついでにどこかをやればいい。超浅刺ですから時間がかからないですね。全身しただって。非常に気持ちが良いですね。気分が明るくなる。私の鍼は幸せをもたらす幸福のメッセージですね。いや本当ですよ。ものすごい気持ちが良いから。よし。はい、終わりです。

モデル：ありがとうございます。

首藤先生：もう1人出来ますかな。今2時半か。

受講者：32分です。

首藤先生：ああ本当、まだ大分あるな (笑)。じゃあ。もう1人。

受講者：先生あの、先ほどの取穴の時の肺兪、心兪、督兪なんですが、あれは脊柱に近い側の、いわゆる沢田流のツボに取ったほうが良いんですか？

首藤先生：どっちでもいいですよ、片方でやれば。3行線でもいいですよ。

モデル2：お願いします。先生、肝臓が悪いんですけど。

首藤先生：はい。私、肝臓上手いですよ。あの、治療すると翌日はかなりGOT、GPTが下がってます。

モデル2：裸になったほうがいいですか？

首藤先生：ならないでいい。靴下だけとって。

モデル2：胃潰瘍で肝臓が悪くて、大腸も少し悪いです。

首藤先生：ああ、更年期かなんかある？

モデル2：ありかけたです。

首藤先生：ああ。それは頭も治療しましょう。仰向けに寝ましょう。〔腹部の触診をする〕
要するに内臓の悪い人は敏感です。あのね、さっきの人はね、撮診しても皮膚が薄いから撮診が出来なかった。この人はかなり撮診が出来ます。そうするとここが。で、こっちはこれ。不容、承満あたり。ここが一番痛いね。それと肝臓の悪い時は右の不容ですね。期門よりも不容を狙うんですよ。



腹診



腹部の反応点

あの、初めての人を治療する時はですね、患者さんは緊張するんです。「どげなこと言うか

な、どげな先生かな」って。こういうデレッとした顔を見るとこうちょっと緊張が緩むんです。緊張を緩めるという意味で、お腹にしたり頭にしたり。で、馬鹿話をしているとだんだん緊張が緩んできます。そうして脈を診ると非常に分かり良いですね。最初はもう緊張すると脈も緊張した脈ですから、緊脈、弦脈、ですから、それで証を決めると困るんですね。〔脈診をする〕肝臓は本当良く効きますよ。こないだ話したようにGOTがたしか300か500かあったんですが、一回鍼したら200になって、その次に来たら150になって、その次が50になって。で、2週間です。お医者さんがびっくりして、「これもう、入院せんでいいよ」って。その後は出てこないです。

えーとね、脾虚証。舌出してみても、舌はいいですね。脾虚肝実の形ですね。だから肝虚証もいいかもしれません。状態によって脾虚とか言って、卑怯な男で。実に卑怯な治療法です（笑）。経絡治療家にしては節操がない。話が小説的だと。私は患者さんからも皆からも「頭良かったでしょ」と言われるけど、頭はあんまり良うなかったです。で、講談ばかり読んでいたです。講談は詳しいです。真田十勇士とかね。えーと左の大陵いきます。太白だけでもいいけどね。で、大都と太白じゃどっちがいいとね、これもなかなか問題あるんです。で、こうやってみると気持ちが良いところです。気持ちが良いのはね、こっちが気持ちいいです、私がね。じゃあ大都やるか。

受講者：その気持ちが良いとか悪いとかは触った感じですか？

首藤先生：私が気持ちいい。あの、ワックスを塗った感じもある。

受講者：すべり以外では、何か他にも指標にすることはありますか？

首藤先生：凹んだ処ね。

受講者：ふくらんだ処よりは凹んだ処ですか？

首藤先生：それはね、ふくらんだ処もね、効くことあるんです。

受講者：先生、指間穴はどこに取るんでしょうか？

首藤先生：ちょっと印をしましょう。この指の間です。

受講者：切皮なんですか。

首藤先生：私がやってたのは単刺。あのね、これはどのような時に分かるかという、
血圧が非常に高い時。この指間穴やるでしょ、血圧がスーッと下がる。要するに手足の先
の毛細血管の循環が良くなる。これはもう劇的に効きます。だからまあ、しょっちゅうす
るツボじゃないですね、これは。さあとという時に。血圧高いからこれやると、まもなくす
ると20～30その場で下がるんですよ。それだけやるときゃいいかというとなかなかそ
うはいきません。それで、〔脈を診る〕肝の硬いのが取れた。よう効くわ。やっぱ私が上手
いんだな、こりゃ（笑）。よう効いた。非常に硬かったんですよ、ここが。これだけ柔らか
くなればね、要するに胃気が出たわけですから非常に柔らかくなって来ると。もう肝は瀉
す必要無いからね。そうすると、これがまたずるいところがある。肝をやりたいけど肝が
強くない時には、この太衝を補うんです。太衝ね。そうすると肝も治療し脾を補うこと
になるんですね。ここは肝経の土穴でしょ。肝経の脾の影響がある経穴ね、これをやると両
方補うんです。で、これは瀉さない。肝が非常に硬い時は行間を瀉して脾を補う。もうこ
れでね、おおよその事は出来たんです。（足）三里を補って。よいしょ。それでここ、太白
に鍼入るとるからね、このまま腹這いになります。



腹部の刺鍼



背部の刺鍼



座位で肩に散鍼

はい、うつ伏せて下さい。〔モデル、伏臥位になる〕で、後は脾俞、肝俞の辺りを診て。こ
の先生はやっぱここが痛いぞ。さっきの先生は全然痛う無かったけどな。

モデル：痛たた。

首藤先生：これはやっぱり気疲れです。苦勞しよるんだ。「オサマビンラディン」が影響し
てんのかな（笑）。これはまあ、ちょっと肝俞に置鍼するのもいいですね。それほどね、私
はあまり余計に置鍼しないんですわ。しょっちゅう変わるんで困る。法則が無い。患者さ

んに説明するんです。「どうもないでしょ、鍼痛くないでしょ、何しとるかわかる？」と言うと「先生、それで効くんですか？」って。「ああ、こんな効くのはないです」と言うとその気になる、患者さんは。神がかり的に効きます。ちょっと芝ちゃん、ここお灸すえてくれる。

芝原先生：はい。

首藤先生：芝原さんの発表はものすごく評判良かったですよ。お世辞じゃなしに。半分お世辞だけれども（笑）。とっても良かったと。もう有名人ですよ。弦躰塾代表です。あの、だいたい私の所で治療するのはこういう感じですよ。そう長くやらないし、鍼数も今ぐらいですね。

芝原先生：（お灸は）3ヶ所？

首藤先生：3ヶ所です。ただ、慢性になるともうね、1回で治るわけじゃないですから。「毎週来なさい。で、自宅でお灸が出来ればすえて下さい」と。出来ないと言った時は「一人で出来る処だけやりましょう」と。で、このモデルの先生の場合はね、公孫、内関にします。そして、もうちょっとという時は太衝を下ろすかね。脾経と肝経と心包経の治療になりますね。公孫—内関という奇経の治療をするわけですよ。いやあ、お灸というのは本当に良く効きます。それとお灸もですけども、鍼もですね、自分で毎日治療することですね。そうしないと本当の良さは分からないですよ。自分でやると「ああ効いた」と。「ああ、これは効いたな」という時は、その次の日からまた自信が出るんですね。そういう感覚が薄れてくると、なんとなく治療に迫力が無いような感じですね。自分で納得する鍼が出来る時の方が患者さんも納得出来るんです。だから自分があやふやだと患者さんもなんとなく「この先生、大丈夫かなあ」と思うんです。で、私は百（歳）まであと30年しかないんですよ（笑）。それまでに皆が上手になってもらわんと困る（笑）。はい、じゃあ起きて下さい。座りましょう。あぐらかいて、あぐらを。

モデル：足が……。〔鍼を抜いてない〕

首藤先生：あ、忘れとった（笑）。必ず忘れる。患者さんから指摘されるんですね。「もう俺も歳じゃなあ」と。で、時々患者さんを誉めるんです。「こりゃいいなあ」とかね。そうするとまた患者さんは喜ぶんです。で、脈が良い時はもう、私は誉めて誉め上げるんで

す。「わあ、すごい脈してる。交通事故だけ気をつけな」と言ってね（笑）。（患者さんは）「いやあ、長生きしとう無いけど」とか言いながら、もうニコニコして。あれ本当は長生きしたいんですよ。誰も死にたいということは無いからね。死にたいのは鬱の人だけです。鬱の人はもう油断すると本当に死ぬんです。はいっち。はい、終わりです。

モデル：ありがとうございました。

首藤先生：はい、こういうのが私の臨床です。終わります。

芝原先生：えー、ではこれで95回目の弦躰塾を終了させていただきます。引き続いて、先ほども塾長からお話がありましたように「忘年会」ということで、時間のある人はよろしくをお願いします。

忘年会

野上先生：あの、久しぶりの忘年会で。ゆっくり楽しんでいただきたいと思います。それでは一言御挨拶をお願いします。



忘年会の挨拶をする首藤先生

首藤先生：あの、2、3日前に急に思い立ったわけ（笑）。というのはですね、ここに（酒が）出てますけど、これは京都のですね、松本酒造という所の「菊池錦」ですね。で、この前の弦躰塾のセミナーに参加した奈良の高橋先生、東洋はり関西支部の先生ですが、こ

の先生がね「忘年会に使って下さい」って送ってきたんです（笑）。それで忘年会をせざるをえないという、非情に苦しい立場になりまして（笑）。それで野上さんに言うてね、急遽設定してもらったということです。ですから料理が余るか足りないか分かりませんが、あるだけひとつ飲んでいただきたいと思いますが。あの、今年1年は私にとって非常にまあ、70年間のうちの激動の年と言っていい。非常になんかいろんなものがあってですね、アップダウンしたんですけども何とか乗り切って。で、来年の2月17日で満70歳にね。ということは70年生きて来たということでありまして、その生きる源泉はこの弦躰塾の皆様方から戴いたというふうに思っております。大変嬉しく思っております。これからまあ何年行くか分かりませんが、後20年は行く必要が、ちょっと事情が出来ましてですね、20年はどうしても元気でないと良くないという事がありますので。まあ90になったらボチボチ遊ぼうかなあというふうに思っておりますんで（笑）。女遊びでもしようかと（笑）。えー、1年間の感謝の気持ちを込めまして、皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。〔一同拍手〕



弦躰塾の忘年会

野上先生：今日は30人分頼みましたんで、いっぱい食べて持って帰って下さい。

首藤先生：そう、残ったら持って帰って。さあ先生、ひとつづついこうか、いろいろ飲んでな。

酒宴たけなわの頃・・・

首藤先生：これはやっぱね、(自分自身で) 気の医学という普遍的なものが分からないと、本当に流行らない。なかなかそれがわからないんです、皆は。説明するのも難しいけど。まあ私は結構上手に説明するけどね。私のような講義を、話をするような人はいないよ。

受講者：先生が本当に口下手とおっしゃるのが信じられません。

首藤先生：私もそう思うけどな、本来はそうなの。ただ、それが練習でこれくらいなつた。何でも10年やりゃあ出来るって。皆出来ないという思い込みがあるわけです。首藤先生は特別だから出来るよね。違うんですよ。才能はありゃせん。小学校のね、同級生が昨日治療に来ていた。で、村田さんと高嶋さんにね、「首藤さんはなあ、ものすごく頭が良かった」と言って。老人会でもこう言うんです。「違うって。私は頭良いんじゃない。一生懸命努力したんじゃない」と言うけど、「いや違う、頭良い」と。

受講者：大体、元々が良かったんでしょ。

首藤先生：元々良いから努力したらつまらんな(笑)。違うんですよ、私に言わせると。あの、世の中の一角になって有名になった人で、結構頭が悪いという人は多いんですよ。それも一生懸命やって——あの、私の『経絡治療のすすめ』で「周梨槃特」っているでしょう。あれ本当に頭悪いんです。だから頭悪くて何言っても分からんから、お釈迦様が「お前、掃除だけせい」と言って。ずーっと掃除を何十年もして、ある日突然ニコッと笑った。そしたらお釈迦様が「おっ、お前は悟りを開いた」と。努力ですね。努力してるとある日突然分かって来るんです。それなんです。だから続けてね、精進するというのが大事なんです。だからあの、お釈迦様のお弟子さんに阿難というのがいたのね、アーナンダがね。これは男前なんですけど結局悟りが開かないんです、あんまり男前で頭が良いから。だから馬鹿な周梨槃特のほうが悟りを開いたというね、そこへんがやっぱり、平凡と精進、努力という日々がある。で、私は周梨槃特の影響でね、頭が悪いと思うから一生懸命やるんです。人の後に3倍やらんと同じ処に行かないからね。だから3倍やってるんです、何でも。[酒をつごうとした人に] ひとつを余計に飲むんじゃない、いろいろ飲まなきゃいけない。あんた俺の心がまだ分かってない(笑)。

受講者：難しいなー(笑)。

首藤先生：あの、弦躰塾の良い点はね、若い人がいてね、で、中年もおるしね、こういう私より高齢の人がね、私の事を助けてくれると。ね、こんな会は無いですよ。だいたい上の人はね、下が上がって来ると蹴落とすんです、日本人は。破門したりね。そんなことこの人は全く無い。で、この先生はね、俺が最初の県の理事になった時に、この人は会長のような器じゃからな、「なんで会長にならんのか」と言うたことがあるんです。会長になったら私は応援するからと。で会長になったです。全力で応援したんです。そしたら「あなたは私より下のほうで、どうしてあなたにお返ししようか」とずっと言った。なっ。そげなこと言う必要無いですよ。私が弦躰塾を立ち上げた時に一番に来た。これしかお返しが無いと言ってね。これは響きますわ、私の心に。私が言う「こころ」とはそういうもんですね。言うことは私は同じです、どこで言うことも。皆は信用する。で、講義すると、見学に来た人はパッと見て「あ、先生は言うことと書いてあることが全く一緒」と。違う人もあるわけですね。臨床を見ると「なんだ書いてあるのと喋ってるのと違うじゃないの」と。そんな裏表は無い。もう、全く一緒。そんで信用がある。だからまあ、時々本当の事を言うて怒られるけど。失敗することあるんです。後で分かったと笑い話になるけどね。うちの親父じゃないけど、「馬鹿を馬鹿って言われると腹が立つ」とこう言うんです。偉い先生はね、失敗を言わない。で、本当の大事なことを言わない。これはアメリカに一番最初に行った時に向こうから言われたですよ。日本の鍼の先生は何人か来ましたが、講演を聞いたらね、大事なところは言わないで帰ったと。で、首藤先生は大事な一番良い処を全部出したとね。だから、次もまた来て下さいと。「私は全部出したから喋ることが無くなった」と言って（笑）。「そんなことないでしょう」と向こうは言ったけどね。向こうはものすごく精神的な部分を評価する。だからうわべだけじゃなくてね。私がこうやるところ（鍼さばき）を見るとね、向こうの人はビューティフルと言ってこの指に惚れるわけね。で、これはいいと。それでも首藤先生はやっぱり精神的なものを持ってるということで評価されたのね。で、私もそういうほうが大事だと思ってるんで、それが分かってもらえたので良かったです。日本の鍼灸師はもっと考えなきゃだめです。だから、私が今度のテーマに心を選んだのは、そのやっぱり「精神論」ですよ。これが無いと本当の鍼灸師じゃないですよ。これは医者にもあてはまる。そういう気持ちを持つてる医者は流行るし、信頼があるんですよ。そういう処から考えるとね。臨床家は患者さんを治療するのが現場ですからね。

受講者：先生、どうぞ。

首藤先生：〔酒をつがれて〕 あんた、何処の人ね（笑）。この人はねえ、頭良いのよ、凄く。うーん。やっぱり普通とはちょっと違うな。そのうち弦躰塾を乗っ取りますよ（笑）。そういう気持ちとね、やり方が今は少ないんですよ。この人のようにね。だから、頭だけ良ければいいというようなね、そんなものじゃないですよ、本当言うと。学問が無いとまた悪いですよ。学問は無くってはならんけども、元々は臨床が主体ですからね。



文責：高嶋正明